ツール・ド・北海道第3ステージ

鈴木（シマノ）がトップ

市民レース高校生の部　山本（帯農2年）初優勝

【清水】自転車ロードレースの2002ツール・ド・北海道国際大会は14日、網走管内留辺蘂町から清水町まで170キロの第3ステージを行った。終盤まで30人ほどの第1集団を形成し、清水町に入った残り4キロ地点でトップに立った鈴木真理（シマノ）が2位のペラス・ドミニク（カナダ）を振り切りトップでゴールした。団体総合順位は日本鋪道が首位を守った。個人総合時間順位はモーリ・シモーネ（日本鋪道）が第1ステージからの首位をキープ。今大会最大の難所の山岳ステージで、狩野智也（シマノ）が山岳総合ポイント1位に躍り出た。鹿追町・然別湖畔温泉から清水町役場前の42キロ間で行われた市民レースの個人タイムトライアル高校生の部では山本幸平（帯農2年）がゴール前のし烈な争いを振り切り初優勝を飾った。（古田千晶）

念願の優勝を遂げて喜ぶ山本幸平（帯農2年・KBCカマダ所属）

ラスト直線、一気に

市民レース制覇の山本

脚力信じデッドヒート制す

MTBジャパンシリーズにも意欲

山本幸平（帯農2年・KBCカマダ所属）がガッツポーズ、高校生の部トップで会心のゴールを遂げた。「今の思いは言葉に表せないくらいに最高」と声が弾む。

42キロのレースは中盤にきても集団の変動はなかった。鹿追市街を抜け清水まではアップダウンがきつく疲労を誘うが、山本は先頭部を保持。勝負は、山本がにらんだように最後だった。レース前、自転車の先輩でもある兄・和弘（19）＝専門学校生＝の「スプリント（短距離）なら勝てる。自信を持て」という言葉が頭にあった。ゴール前、直線360メートルのデッドヒートを山本は自慢の脚力で一気に制した。

ロードレースを本格的に始めたのは今春で、レースは3回目。だが兄弟でマウンテンバイク歴10年以上。同競技では山本は7月28日の全日本選手権クロスカントリー男子ジュニアで準優勝、日本のトップクラス選手だ。6月、士幌高原での大会で試走中に転倒して優勝を逃した。その際に右手親指付け根のじん帯を切断。こだわった〝優勝〟の喜びから、今回のゴール寸前に屈辱の傷口にキスした。

沿道で優勝の瞬間を観戦した和弘は「しびれました」と絶賛。和弘は本戦レースの北海道地域選抜に選出されたが、学業の都合で辞退していた。「来年は出たいですよ」と弟の活躍に気持ちも高まったよう。

兄弟は21日にマウンテンバイクのジャパンシリーズが控える。日本上位クラスのエリートの部に参戦する。最年少で挑む幸平は「兄を追い、負けないよう1ケタ（順位）を狙って頑張ります」。

市民レースには管内選手も多数参加。登録選手の部で林雄二（帯広消防署）が4位入賞と健闘、チームタイムトライアルではKBCときお（上出嘉晃、滝口勇二、石澤一治）が5位に食い込んだ。

フィニッシュ地点の沿道では清水町民や十勝管内のファンが小旗を振り、選手らに熱い声援を送った。大会は15日、日高管内日高町から岩見沢市までの159キロで第4ステージが行われた。

左鎖骨骨折から復活し、自信のスプリント力を発揮し第3ステージを制した鈴木真理（シマノ）は清水町役場前でガッツポーズのゴール

◆第3ステージ成績（3位まで）

◇個人区間順位＝①鈴木真理（シマノ）4時間17分41秒②ペラス・ドミニク（カナダ）4時間17分41秒③岡崎和也（日本鋪道）4時間17分44秒

◇団体区間時間賞＝①カナダ12時間53分9秒②シマノ12時間53分9秒③日本鋪道12時間53分12秒＝1チーム5人で上位3人の合計タイム

◆通算成績

◇個人総合時間順位＝①モーリ・シモーネ（日本鋪道）13時間5分38秒②狩野智也（シマノ）13時間6分7秒③テテリック・ミハエル（日本鋪道）13時間6分59秒

◇個人総合ポイント賞＝①ペラス・ドミニク（カナダ）55②岡崎和也（日本鋪道）51③鈴木真理（シマノ）45

◇個人総合山岳賞＝①狩野智也（シマノ）23②モーリ・シモーネ（日本鋪道）21③ペラス・ドミニク（カナダ）13

◇団体総合時間賞＝①日本鋪道39時間19分54秒②シマノ39時間20分57秒③イラン39時間23分6秒

（2位以下管内関係分）

＜市民レース＞

◇チームタイムトライアル＝①フライヤーズ58分37秒68⑤KBCときお（上出嘉晃、滝口勇二、石澤一治）1時間55秒61⑧鹿追自衛隊（和田将裕、大平聡、山田智章）1時間15分56秒62

＊順位は上位2人の2位のタイム

◇個人タイムトライアル

▽B1（高校生）＝①山本幸平（帯農）57分38秒25

▽B2（登録選手）＝①小玉齋明（チェブロKOEI）57分38秒52④林雄二（帯広市消防署）57分39秒32⑬佐藤力（帯広養護学校）57分52秒24

▽B3（上級者）＝①村上典正（札幌リバース）1時間31秒79㉘御前博一（帯広トヨペット）1時間44秒46

▽B4（中級者）＝①紺野衛（松戸自衛隊）1時間40秒36㉒渡辺修二（上士幌郵便局）1時間4分58秒31㉕渡辺敏夫（音更郵便局）1時間4分59秒17(54)町田巳千代（帯広市役所）1時間13分34秒51

▽B5（初級者）＝①脇坂浩一（キヤノン）1時間2分12秒44⑫太田浩司（チームSUN）1時間5分22秒39㉕野中司（JR帯広工務所）1時間8分47秒05㉝松田秀之（帯広養護学校）1時間11分20秒61㊹山崎雅文（よつ葉乳業）1時間14分56秒02㊺三野信明（よつ葉乳業）1時間15分18秒50(55)君島哲夫（十勝NOSAI）1時間18分42秒94(57)富原睦（十勝支庁種畜検査員）1時間20分21秒60

▽B6（女子）＝①孫田千加子（北広島プリンスホテル）1時間2分26秒05

▽B7（中学生）＝①入野谷圭太（網走第三）1時間2分12秒52

4位入賞を喜ぶ林雄二

レース終了後、大役を果たしてホッとする宇野さん

KBCときお（左から滝口、上出、石澤）は市民レースのチームトライアルで5位に入賞

得意の下りで力走　初日の悔しさ晴らす

○…なだれ込むようにゴールした市民レース個人ロードB2クラスで、林雄二（38）＝帯広市消防署勤務＝が過去最高の4位に入賞。大会初日の11日、釧路でのタイムトライアルでは同クラス下位に終わった悔しさを晴らした。3日後のこの日、「短い中でもがきながらも、自分の得意な下りと平たんなコースだったので、上位を逃したくないと思い頑張った」と林。集団から外れることなく、食いしばった力走で「入賞できてよかった」。声援をくれた息子の前で笑顔を見せた。

体調の悪さもなんの　最高齢チームが底力

○…市民レース常連チーム・KBCときお（上出嘉晃、滝口勇二、石澤一治）＝帯広＝がチームタイムトライアル5位に食い込んだ。「直線コースでペースを崩すことなく平均時速40—41キロを保てたのがよかった」（石澤）と想定通りの展開だった。

大会2日前、滝口が体調を崩し参加も危ぶまれた。だが点滴などで何とか回復、開会式で滝口は選手宣誓も行い「健闘を誓うことで気合が入った」。上りに強い上出、下りは滝口、平らな道に強い石澤と順列を入れ替えながら前走チームを追った。3人の平均年齢47・6歳、「参加チームの最高齢チームとしては、よくやったよ」（石澤）と底力を見せた。

選手を応援する気持ち込めた

○…自動二輪車で市民レース参加者の最後尾から追走するオートバイスタッフを宇野千鶴さん（33）＝帯広＝が務めた。女性では珍しい大役で、大会前は何度もコースを試走。本番は「スピードを出しすぎないように緊張した」と宇野さん。自らも自転車選手で、後ろから「頑張れって、気持ちもこもりました」。間近で見た選手の姿に影響され「来年は選手として出たい」と意欲を見せた。

全十勝中学秋季ソフトテニス

男子　帯八千代2連覇

女子　帯五が初の栄冠

【男子団体戦・決勝】予選リーグから安定した強さを発揮した帯八千代の草森裕基（手前）林風太組

ソフトテニスの第25回全十勝中学秋季大会兼第24回道中学団体対抗大会予選会全十勝中学室内大会予選会（全十勝中体連など主催）は14日、帯広の森テニスコートで男女団体戦を行った。男子決勝は帯八千代が帯八を2—0で圧倒し2連覇を達成した。女子決勝は帯五が帯四を接戦の末2—1で下し悲願の初優勝を飾った。優勝チームは来年2月9日に札幌市で開催される全道大会へ出場する。（丸山一樹）

冷静な試合運びで一気に逆転

○…昨年、団体戦のメンバーとして全道大会を経験している帯八千代の林風太（2年）草森裕基（同）組は決勝でも冷静な試合運びで帯八の伊藤裕哉（2年）鈴木健（同）組を破った。

1ゲーム目を落としはしたが「練習試合でも負けたことはなかったのでいつも通りのプレーを心掛けた」（草森）と平常心を保った。林のラインぎりぎりに決まるショット、草森の相手の動きを読んだ絶妙のボレーは随所に決まり、一気に4ゲームを奪い返した。

昨年は全道大会で3位に入った帯八千代。チームの大黒柱でもある林、草森は「優勝を狙う」と闘志を前面に出す。

【男子】◇団体戦決勝トーナメント

▽準決勝

帯八千代	2—0	帯緑園
帯八	2—1	帯川西

▽決勝

帯八千代	2—0	帯八

【女子】◇同▽1回戦

帯五	2—1	帯南町
帯四	2—0	帯六

▽準々決勝

帯五	2—0	帯二
広尾	2—0	札内
更別中央	2—0	芽室
帯四	2—0	帯一

▽準決勝

帯五	2—1	広尾
帯四	2—1	更別中央

▽決勝

帯五	2—1	帯四

男子優勝の帯八千代。前列は出場選手で、左から草森裕基・林風太組、安田圭佑・楊裕組、安田秀哉・棚瀬亮平組、荒尾圭祐・太田駿組

女子優勝の帯五の出場選手。前列左から岩佐綾香・津野亜衣組、池上阿弥子・大塚美波組。後列左から松原愛衣理・木幡亜加里組、西本美樹・楠舞組

全道ではまず1勝を　女子で優勝した帯五の

池上阿弥子主将の話　優勝できて、うれしいの一言。決勝で私たちの組は負けたけど、みんなで力を合わせて頑張れたので悔しさはない。全道大会ではまず1勝を目指す。

帯北×帯大谷　決勝で対戦

サッカーU18　道リーグ参入戦

サッカーのU18北海道サッカーリーグ参入戦は14日、帯広・馬事公苑サッカー場で1回戦を行った。帯北は帯広FCから大量10得点を奪い10—0で圧倒した。帯大谷は釧路緑ケ岡を1—0で破り決勝へ駒を進めた。決勝は15日午前10時から同所で行われた。優勝チームが釧路・帯広地区代表として来年度から始まる同リーグに参加できる。

▽1回戦

帯北	10—0	帯広FC
帯大谷	1—0	釧路緑ケ岡

女子のWESTなど準々決勝に

道小学生バレー　帯広地区予選

バレーボールの第22回道小学生大会帯広地区予選会（帯広バレーボール協会など主催）第2日は14日、音更町総合体育館で女子の決勝トーナメント2回戦までを行い、WEST、広尾などが準々決勝に駒を進めた。最終日の15日は男女の決勝などが行われた。

【女子】◇決勝トーナメント▽

1回戦

札内北	2—0	本別
足寄	2—0	木野東
緑陽台	2—0	大樹
豊頃	2—1	フレンズ

▽2回戦

WEST	2—0	札内北
芽室小	2—0	白人
下音更	2—0	芽室
足寄	2—1	稲田
緑陽台	2—1	更別
緑丘	2—1	音更
大正	2—0	川西
広尾	2—1	豊頃

防災・防犯設備　ご相談はフジ防災　電話23-8787・24時間受付中

「タンゴ・タンゴ・タンゴ」幕別公演

十勝毎日新聞社は、まくべつ町民芸術劇場と共催で、「タンゴ・タンゴ・タンゴ～小松亮太&ザ・タンギスツ、上田遥&ダンスファクトリー」公演を開催します。日本のタンゴミュージックシーンをリードするバンドネオン奏者、小松亮太とダンス界の鬼才、上田遥が情熱的なステージを展開します。

▽日　時　11月21日（木）午後6時30分開場　午後7時開演
▽会　場　幕別町百年記念ホール
▽入場料　全席指定2500円（当日3000円・税込み）
▽前売り券取り扱い　幕別町百年記念ホール、役場住民係、同札内支所、勝毎サロン、MINAステーション、藤丸チケットぴあほか
▽問い合わせ　まくべつ町民芸術劇場☎0155・56・8600

主催　まくべつ町民芸術劇場、十勝毎日新聞社

練習法のコツ学ぶ

全十勝バドミントン高校指導者講習会

全十勝バドミントン高校部指導者講習会が14日午後1時から、帯広の森体育館で行われ、十勝管内の高校生指導者ら15人が選手の競技力向上のためのトレーニング法を学んだ。

全日本教職員選手権大会ダブルスで2年連続準優勝経験を持つ広尾高バドミントン部監督の後藤貴宏さんを中心に講習が行われた。

ダブルス前衛選手のプレー、シングルス選手のネット際のプレーの2点に焦点が当てられた。後藤さんは練習法、練習のポイントを実技を採り入れながら、分かりやすく説明。

参加した指導者は熱心に質問、ノートにメモをとるなどして新たな知識を各校へ持ち帰った。（丸山一樹）

練習法などを熱心に説明する広尾高バドミントン部監督の後藤貴宏さん（左）

◇2002サマーフットサル大会（3、10、13日・ジュニオールほか）

悪ベス	2—0	HISSAⅡ
クラップス	3—1	鳥のいとう音更店
JAS・FC	3—2	ラ・パンチョ
ガンバレ・ベイスターズ	3—2	ヒシダカ
SONIC	2—1	FC・スタンコ
フレーバー	4—0	マリーシア夏
北高OBシニア	7—0	ラ・パンチョ
ガンバレ・ベイスターズ	3—2	GEL・GU・GU
fof9	5—2	木曜蹴友会
ソルテ	7—2	ESIZ
シュレック	3—1	アシスト
PAL・FC	3—1	アクセル